

CD サークルだより 第1号

発行所 山口赤十字病院 内科外来
発行日 平成24年1月発行

末兼先生からのメッセージ

【山口 CD サークルを開催して】

山口市は本州西端の県庁所在地ですが、人口15万の田舎町です。小京都と呼ばれ、大内氏が栄えた室町時代から人口がほとんど変わっていません。当院内科には山口市・県中央部～萩・北浦・山口県北部～津和野エリアのクローン病45名(2011年12月現在)の患者さんが通院されています。(潰瘍性大腸炎は86名、両疾患とも毎年増加)クローン病は内科的治療を主体としながらも外科との連携は必須で、穿孔、腸閉塞、瘻孔などの合併症のために手術を施行した患者さんは26名(現在通院の45名中)おられます。患者さんの中には、病気の受容・理解が不十分のまま、手術を含む治療に対する恐怖心が強く、病状が悪化してもすぐに来院頂けないこともありました。

難病だからといって患者さん一人で悩むことが無いように、なるべく新しい有益な情報の提供と信頼関係を深めるため、医療従事者と患者さん・ご家族との共同勉強会の企画を考えたところ、J-IBDのIBDキャンパスの存在を知り、2004年7月3日第1回山口赤十字病院クローン病教室として開催させて頂きました。理事長の市川氏と松村氏の講演と参加者からの質問・回答形式で実施し、講演ではご自身の患者体験に基づいた病気の受け止め方、医者との接し方、病状コントロールに有効であった栄養療法の実体験など具体的な生の話が聞けて患者・医療スタッフ共に大変好評でした。患者さんの中には理事長の壮絶な治療・手術歴に驚かれた方も多く普段の食事・栄養療法の重要性や状況に応じた手術の必要性の再認識になったと思います。

(2006年以降は山口CDサークルとして年2回定期開催)



チューブ挿入体験中の末兼 Dr
涙目になりながら何度も try...

クローン病は特定疾患とはいえ、きちんとした治療と栄養管理さえしっかりやれば、普通の人と変わらない生活が可能です。当院でも2006年以降、抗TNF α 抗体製剤のレミケード治療を導入し現在30名(66%)の方が行っています。当院では、外来化学療法室での通院治療も可能で患者さんのQOL向上に貢献しています。レミケードはクローン病の治療体系に明るい変化をもたらしましたが適応には慎重な検討が必要で、緩解導入・維持には治療の基礎である食事栄養療法の並行継続が必要です。

食事栄養療法に関しては当院栄養課の協力で、腸管に優しいクローン病食メニュー・試食会を2008年・2009年の山口CDサークルで実施しています。今後もエレンタールを始め、おいしくやさしいクローン病食メニューのご案内や試食会が出来ればと思っています。

田舎の病院といえども全日本・世界レベルのIBD診療・治療、患者さんへの情報発信を心がけたいと思います。

今後ともより多くの患者さんに山口CDサークルを受講して頂けるよう当院スタッフで努力し、半年に1回定期的に企画・開催して行く予定です。よろしくお願いいたします。

栄養課 野崎さんより

【エレンタールの飲み方について】

エレンタールは、必ずしも冷蔵庫で冷やしておく必要はありません。一度作ったエレンタールは常温放置の場合は5~6時間以内に飲んでください。高栄養食品ですので、取り扱いには牛乳と同じと考えてください。ペットボトルに作り、ペットボトル用バックなどに入れ、常温で持ち歩き少しずつ飲まれている方も多くいらっしゃいます。エレンタールの味においては、溶かす水や温度によって強さが異なっており、それぞれ個人の飲み方があるようです。



編集後記

このたびCDサークルだよりを発行する事になりました。年2回開催するCDサークルの御案内をかねて、開催日の3ヶ月前を目安にお届けする予定です。CDサークルに来られない方にも役立つミニ情報誌を目標にしております。今回は、末兼先生の熱いメッセージでしたが、今後、みなさまのお役にたてるような新情報や、美味しく腸に優しいメニュー紹介、闘病記、絵画なども掲載したいと思っています。是非作品をお寄せ下さい。おたよりの感想もお待ちしております。

編集担当 内科外来看護師 種田 イラスト: 救急処置室看護師 吉野

